北光

第132号
平成17年8月10日

北光会 (http://www.hokkokai.com)

秋田鉱山専門学校
秋田大学鉱山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

目　　次

巻 頭 言 …… 菊 地 芳 朗 …… 1

平成17年度 北光会通常総会報告 …… 2

龍華科技大学，国立台北科技大学交流調印式に参加して ……13

研究最前線 ……17

先輩から学生へ ……21

北から南から　－支部・クラス会だより－ ……23

会員だより ……31

会 員 消 息 ……31

事務局から ……32

訃　　報 ……35

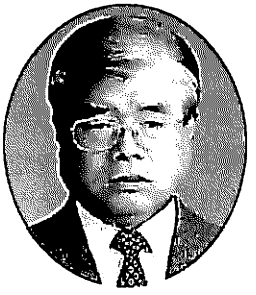
編 集 後 記 ……36

表紙写真：鉱業博物館から工学資源学部キャンパスを撮影したもの。

巻　頭　言

“会長就任２年目を迎えて－北光会の課題－”

菊　地　芳　朗（GS34）



昨年の６月，会長を拝命してから１年が経ちました。母校は昨年４月より独立法人となりました。法人化に伴い中期目標・中期計画を作成し，その達成に努力しております。３年後に一部見直しがあり，６年後の平成22年に評価を受けます。評価の結果が悪い場合は淘汰されると云う，厳しい結果となります。

少子化などにより大学・短大の入学希望者は減少し，2007年には全員が入学できるようになる，と云われていることは前にも述べました。最近の新聞に「定員割れ私大最多」と報じられております。国立大学と云えども油断の出来ないことと思います。

秋田大学の基本理念と目標に「地域の振興」と「地域の共生」があり，県内で色々な活動を進めております。この事は大変結構なことと思います。しかしながら工学資源学部は県内の活動だけで良いのでしょうか。もっと幅広い領域を持っております。日本全国はもとより世界を活動拠点としなければ成りません。これは秋田鉱山専門学校が設立されたときからの理念でもあります。最近，土木環境工学科と材料工学科が教育の推進を図るため，国際的に通用するJABEE（日本技術者教育認定機構）による認定を取得しました。喜ばしいことです。平成18年度までに工学資源学部の全学科がJABEEの認定を目指しております。是非とも取得して頂きたいと思います。

この様な中で北光会としても母校・工学資源学部を支援することが必要と考えます。
昨年12月，母校は東京に事務所を開設しました。「秋田大学東京サテライト」と呼んでおります。ここでは入試や就職活動に加えて，私達にとって一番重要なことは，ここを活動拠点として産学官の連携を深めて行くことであります。

先の「会長便り」で述べましたように川上学部長からは，産学官との連携を深めて行くために協力を要請されました。私達は，これに対しお手伝い・協力して行くために基金の使用を，この度の総会でご承認を得ました。「秋田大学東京セミナー」と称して実施しており既に６回を数え，８月には大阪でも行うことにしております。

今，北光会の大きな課題は，秋田鉱山専門学校，秋田大学鉱山学部そして工学資源学部と数えて平成23年に創立100周年を迎えることです。記念事業をどうするか，いま学部内で検討されております。これに対し北光会として，どう協力して行くのか。皆様方のご意見を聞かなければ成りません。

しかし，私はその前に二つのことを心配しております。一つは，平成22年の評価であります。母校・工学資源学部が現在よりさらに発展して頂かなければなりません。翌23年が創立100周年です。もし，何らかのことがありましたら100周年は，どんな意味を持つのでしょうか。この様なことのないようにしなければ成りません。先に述べました基金を使っても支援すると云うことは，このことを意味しております。

二つ目は，若い会員(若年層）が北光会にあまり関心を持って頂けないと云うことであります。会費納入率はどうにか30数パーセントを維持しておりますが，平成年度の卒業生の納入率は極めて低い状況にあります。若年層の心を掴むにはどうすれば良いのか。「北光」の内容を変えるなど色々試みておりますが，此と云った解決策はまだ見いだしておりません。先ずは各支部の総会や会合に参加し，若い会員と話し合うことが大切と考え実施しているところであります。この事は会費のことだけではありません。100年続いた伝統を若い人達に受け継いで頂かなければ，北光会の将来はどうなるのでしょうか。

この二つのことが解決いたしますと，私は創立100周年は自ずと出来上がってくるのではないかと考えております。

皆様方のご指導とご支援をお願いいたします。

ー北光会は，皆様の会費で維持されておりますー